

## アラスカへ (2014.7.10 投稿)

6/13~6/26、アラスカへ行ってきました。第1日目、6/13午後、成田を出てアメリカのシアトルへ。シアトル着は同日AM9。過去へ16時間のタイムトラベルです。その日はカナダのバンクーバーへ移動して宿泊。シアトルと言えばイチローの属したマリナーズの本拠地セーフコ球場を思い出される方も多いのでは？日本人移民の多いことも思い出される方も・・・。第二次世界大戦前に、日本人移民の方々が造られたパイクプレイスマーケットがあります。大戦中は収容所に収容されていたため、この間に他の人たちが運営・・・。大戦後、日系の人達が戻る場所が無くなっていたそうです。マーケットの入口には、移民の人たちの苦勞を偲ばせるタイル画と説明文が飾られていました。その筋向かい、スターバックスの一号店がありました。スターバックスのロゴ、今は三代目だということをご存知ですか？ギリシャ神話のセイレーンをモデルにしているそうです。が、初代ロゴは茶色を使用。この初代ロゴ、特に女性陣に不評。そこで二代目からは緑色を基調にしたロゴに・・・。なぜ不評だったのか・・・。一考してみてください。初代ロゴは、世界広しと言えど、ここでしか見られません。写真1枚目は初代。2枚目は二代目(アラスカのスキヤグウェイで見つけました)、3枚目は勿論三代目(山陽自動車道小野三木SAで見つけました。外側の文字が消えています)。2011年から使用されているとのことです。



## 州の花 (2014.07.11 投稿)



「わかりません」の返事。アメリカにはアメリカシャクナゲ(カルミア)があるのに何故？ちなみにコネチカット州やペンシルベニア州の花はアメリカシャクナゲです。シアトルのあるワシントン州の州花、正式名はロードデンドロン・マクロフィルム・・・。どうやら

USA各州では、日本の県花と同様、州の木・鳥・花などを定めているのはご存じの通りです。シアトルで耳にした話ですが・・・。「この州花はセイヨウシャクナゲなんですよ」と現地日本人ガイドが小生に説明してくれました。周囲を見渡すと、確かに西洋シャクナゲが・・・。「どうして、アメリカで西洋シャクナゲが州花になったの？」と質問。

西洋シャクナゲの仲間のようなのです？ザックリ見ると確かに西洋シャクナゲだと思いますが・・・。どこか少し違うようにも見えますが・・・？ツツジ科ツツジ属の花です。

## アラスカへ (2) (2014.07.13 投稿)



旅行2日目。AM、バンクーバーの市内観光。スタンレーパークでの出来事です。バスを降りて小走りで数歩進んだとたん、左膝に経験したことの無い激痛が・・・。しまった、靭帯断裂か？ともかく持ち合わせていた湿布薬とサポータで応急処置。痛みがなかなか取れない中、PMはクルーズ船の乗船手続。約2時間ほどかかりました。キャビンに入るや否や、ベッドへ。気のせいかな、少し痛みも和らいでいるようなので船内ドクターの検診は今夜の様子見・・・明日は船内でユックリできる終日クルーズの予定なので、少し我慢、我慢でした。アクシデントは一枚目の橋の写真を撮ろうとした時でした。2枚目はクルーズ船（コーラル・プリンセス92,000トン）のキャビンバルコニーから見たバンクーバー。三枚目はバーチシロップ。カナダのメイプルシロップは良くご存知と思いますが・・・サトウカエデの樹液から作られます。バーチシロップはアメリカ白樺（白樺）の樹液から・・・サトウカエデはカナダの東海岸が主産地。西海岸、つまりバンクーバー地域では、サトウカエデは無いそうです。そこで、アメリカシラカバからシロップを・・・食してみるとメイプルシロップと遜色なし。早速、二瓶購入。今回の旅行は今日からアラスカ西海岸を7泊8日で北上しつつ、船上から氷河を鑑賞する旅、残りはアラスカ内部へ。マッキンリーが楽しみです。4枚目の写真はバンクーバーでみかけたビッグリーフメープル(カエデ科)です。

## アラスカへ (3) (2014.07.29 投稿)



旅行4日目です。昨日は終日航海。おかげで足の方もだいぶ楽になってきました。早朝、最初の寄港地、ケチカンへ入港。先住民の暮らしている村を訪問。先住民の子供が着てい



るのは民族衣装です。ここでは、今でもトーテムポールの修復や制作を行っているそうです。この老人（失礼）、ネルソン・ジャクソンさん。トーテムポール彫刻の第一人者だそうです。音楽家としても知られているようですが・・・。



トーテムポールの材料は、主にレ

ッドシダー（アカスギ）が使われているそうです。その他イエローシダーやハンノキも使われるそうです。昨夕は、ウェルカムパーティ。ドレスコードはフォーマル。さすがに海外の紳士淑女は・・・見事な出で立ちでどの女性も美しく見えました。旅慣れていきますね～。

4枚目の写真はサーモンベリー(バラ科)、5枚目はトリアシショウマ。ユキノシタ科の植物。ケチカン散策中、いずれも道端に咲いてい

ました。6枚目はアカバショウマ(ユキノシタ科)。7枚目は夏雪草（バラ科）。どちらも、栈橋を彩るプランターに植えられていました。

## アラスカへ（4）

（2014.08.03 投稿）



旅行5日目です。早朝、二つ目の寄港地、ジュノーに入港。今回の旅で初めて、氷河を見にゆきます。港から約20分ほど、バスに揺られて・・・バスを降りると、前方にメンデルホール氷河とメンデルホール湖(氷河湖)が見えました。バス亭から歩



いて15分ほどでナゲットの滝まで散策できますが・・・生憎の雨模様で足元が悪く、スリップすると大変なので諦めて近くの展望台から・・・。キャビンバルコニーから街の方面を眺めていると、栈橋近くの木陰から白頭鷲が目の前を通り過ぎ、離れた梢に・・・早速1枚。180mmの望遠でなんとか・・・。ジュノー・・・ここは、アラスカの州都。人口3万人ほど。アメリカ

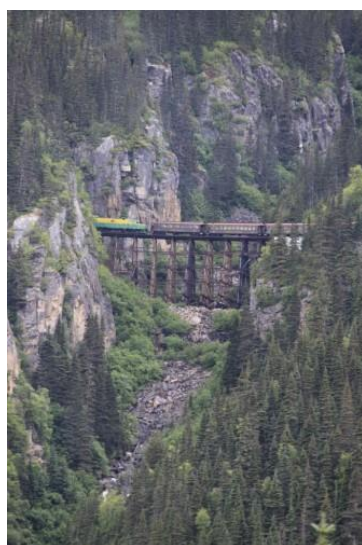


では経済と政治の中心が分かれている州が多いそうです。アラスカの経済の中心はアンカレッジ(人口約30万人)。日本の場合は、県庁所在地=地方自治と経済、文化の中心・・・一極集中が当たり前ですが・・・アメリカの別の顔を見せてもらった気持ちでした。3枚目の写真はデッキからみた栈橋とその向こうにある市街地。栈橋から徒歩40分ほどで往復できます。



## アラスカへ（5） （2014.08.05 投稿）

旅行6日目。三番目の寄港地、スキヤグウェイの観光です。かつてのゴールドラッシュ時代にできた街。採掘現場は溪谷添いに入った奥地のまたその奥地の現在のカナダ。最初は馬により物資の輸送。ゴールドラッシュの最盛期ころ鉄道が開通。途中、馬の体力が尽き、多くの馬が崖下へ。今では「死馬の谷」と呼ばれている場所も……。今日はその鉄道・ホワイトパス&ユーコン鉄道でカナダ国境のホワイトパスまでの往復約3時間。栈橋の即近、徒歩1分?の鉄道駅から乗車。とは言っても、ホームはありません。日本には黒部峡谷鉄道(トロッコ電車)が有名ですが……。溪谷の急峻さは、黒部が上?ユーコンの溪谷は河幅が広く、思いの他、急峻さを感じませんでした。それでも、岩山肌に添っての工事、大変な工事だったそうです。午後は、スキヤグウェイの散策。西部劇に出てきそうな町並み。西部劇のロケにも使われているそうです。その名もブロードウェイ通り。2枚目の写真は今でも現役の木造橋。1枚目はそこを通過中。



写真の船は今回、乗船したコーラル・プリンセス。9万2千トン、全長約300m。2011年に東地中海クルーズで乗船した船(12万5千トン)より二回りほど小型ですが、快適でした。赤いブロックの左側がホーム。



## ラスカへ (6) (2014.08.08 投稿)

今日で7日目。今回のクルーズの最大のハイライト、世界遺産グレイシャーベイ国立公園の氷河めぐり。グレイシャーベイ、直訳すれば氷河湾。AM6:00湾入口でパークレンジャーが乗船、約3時間かけて湾の最奥へ。デッキからの眺めは最高でした。一般に紹介される場合、クルーズ船とマージョリー氷河(最も長い)との2ショットを空から撮影したもの。ご覧になった方も多いと思います。が、小生が気に入ったのはクインシーアダムス山を背景にしたジョンホプキンス氷河(写真参照)。1時間ほど滞在。勿論、船上で・・・。Uターン直後、氷河の崩落があったようですが、小生が居た反対側。残念。大型船は1日2隻までと厳しい入湾規制。湾内での警笛もダメ。パークレンジャーの権限は絶大なものだそうです。排気ガスや排水のチェックも・・・。基準を超える場合は即入湾を拒否できることは勿論、入湾許可書の取り消しまで・・・。腰には拳銃が・・・。日本の国立公園の管理とは比較にならないほど、徹底されているようです。200年ほど前までは、湾全体が氷結。今では500m/年ほどの速さで後退しているとか・・・。原因不明だそうです。世界中でも、これほどの速度で後退する氷河珍しいそうです。必ずしも温暖化のみが原因ではなさそうとの見解。



## アラスカへ (7) (2014.08.09 投稿)



早いもの、もう後半に入り、8日目です。昨日から今日まで終日クルーズ。15:00

ころ26氷河に到着。船上からの氷河鑑賞はここで最後。26氷河……。船上から26個の氷河がみられることからだそうです。別名カレッジ氷河。100年前、大学の資金提供により実現した探検にちなんでいるそうです。このため、各氷河に資金を提供した大学の名前が付けられています。例えばハーバード氷河、エール氷河、スミス氷河など……。しかも湾奥に向かって左側には女子校名、右側には男子校名が付けられています。写真は最奥にあるハーバード氷河とボルティモア氷河。もう一枚は湾内で見かけたラッコです。かなりの数を見かけました。体長は約1m。小さく見えますが、なにせ、船が大きく、海面までの高さが高いものなので……。180mm望遠で精いっぱいサイズ。船が近づいても逃げることなく、悠々と……。お腹を上にした独特のポーズは、いつみても可愛い。

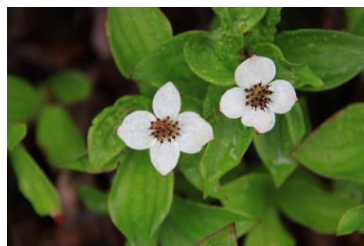
### アラスカへ（8） （2014.08.10 投稿）

昨夜、アンカレッジ近くのウィッティアに入港。船中泊後、AM8:00下船。ここからはアンカレッジ経由でタルキートナにバスで移動。タルキートナはマッキンリー山登山のベース基地。植村直己さんもここを拠点にされていたそうです。



写真はタルキートナでの宿泊ホテル。天気良ければ部屋の窓越しにマッキンリー山が見えるはずでしたが……。残念ながら、写真のごとく……。でもアラスカはロシアが探検発見したロシアの領土。ロシアの経済難などで\$720万でアメリカに売却。当時のアメリカ国家予算の1/3。このため契約した当時のスワード国務長官は、国内から「馬鹿でかい冷蔵庫」を購入したとか、いろいろ批判があったようです。ところが、その後、金鉱が発見され、ゴールドラッシュ……。さらに北極海近くで油田が発見され、一躍アメリカ経済の目玉に。購入費用をはるかに凌ぐ経済効果が……。なんと、アラスカでは元スワード国務長官の名を冠するスワード市やアンカレッジ間にスワードハイウェイが造られているのが現状です。





左はラミュウム(シソ科)、中央はその葉。ラミュウムはシルバーリー



フプランツとしても利用される植物です。

右はゴゼンタチバナ(ミズキ科)。

左はアカバナヒヨウタンボク(スイカズラ科)。

いずれもホテルの散策路で・・・。

小雨の中に可憐に咲いていました。

水分を少し含んだ草花は、普段より綺麗に観えるようです。

後は、太陽の光があればもっと輝いて・・・。

## アラスカへ (9)

(2014.08.11 投稿)



今日で10日目。アラスカ鉄道でデナリ国立公園駅まで約5時間の旅です。乗車した列車は展望車三両構成。1Fは食堂、2Fが座席。列車に乗り込むころには天気も回復。青空が広がって・・・。発車して10分ほどのところで、川向こうにマッキンリー山が・・・。諦めていたのでラッキーでした。その後、天気はどんどん回復。途中、前評判の良かったハリーケーン溪谷・・・。思ったより感激少なかったのが印象的です。やはり、落差はあっても広いので大味。それでも、全線、U字谷の谷底を走ったり、峠を越えたりの広大な風景が楽しめました。タイガからツンドラ、その向こうに雪や氷河を纏ったアラスカ山脈。雄大な風景でした。全天ガラス張りの展望車の座席でユックリ眺めるのも良し。小生の車両は最後尾だったので、ほとんど、最後尾にある展望デッキで過ごしました。手すりがあるだけで吹曝しです。天気が良かったので、気持ちよく・・・。少々、寒い感じも・・・。

## アラスカへ (10)

(2014.08.12 投稿)



11日目です。今日は、デナリ国立公園内の自然観察ツアー。今回のハイライトの一つです。ここはマッキンリー山を中心とした自然保護区。am 9:00、公園専用バスに。公園内の車道

は全長150km(未舗装道路)のパークロード<sup>1</sup>のみ。入口から約25kmまでは一般車両乗入可。今回は5本の川を渡り3箇所のパス(峠)を越えた先のストーニーヒル(入口から約115km)での折返し。途中、野生動物が見えるたびに停車。遠くの場合はドライバー兼務のガイドがビデオカメラでズームアップ。車内の画面で……。グリーズリーベアーの家族、ドールシープの群、カリブー、ムースなど比較的至近距離で見ることができました。中には雷鳥も。2009年、カナダのイエローナイフで見かけた雷鳥よりかなり小型。イエローナイフでは街中をニワトリのように歩いていたのを思い出しました。途中のパスからの展望も素晴らしく雄大です。が、今一風景にシャープさに……。それでも、好天に恵まれ、爽快でした。一枚目の写真は入口から約15km付近からのマッキンリー山。折返地点のストーニーヒルでは観られると聞いていたのですが……。そのストーニーヒルでは雲の中。ラッキーでした。二枚目はポリクロームパスからの……。三枚目はバス真近でのムース。ちなみにマッキンリー山は現地では元々の名称デナリと呼ばれています。



(\*) アラスカは広いですね。リアルでムース見られて良かったですね。

(Sさんのコメント)



## アラスカへ (11)

(2014.08.15 投稿)

今日で12日目。実質的な最終日。フェアバンクス経由で夜遅くシアトルへ。翌日25日の夕刻の便で立ち、翌々日26日の夕刻、成田。昨夕の夕食はキングクラブ(タラバガニ)の半身塩茹で。足の太さ、なんと4cmほども……。これに冷たいビール……。最高でした。カニだけで満腹。添え物に何があったか? 日本では二杯酢もしくはレモン、ご当地ではオリーブオイルをベースにしたタレ? 試してはみましたが、やはり、そのまま薄塩味で。アンカレッジ以

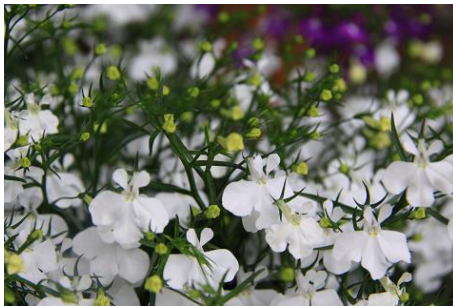






降、北緯60°を超えているため、すでに白夜の季節。かつて、ノルウェイでも体験しましたが・・・さすがにカーテンは厚手で遮光性の高いものでした。1枚目の写真はタルキートナでの住宅。多くは敷地周囲をフェンスで仕切った程度で、その中が庭。ほとんどがプランター類をハンギング。比較的小綺麗な部類です。2枚目はフェアバンクス市内のレストランの中庭？池ではなく川です。敷地の中に一般の川が・・・。

3枚目はシラカバの幹。あまりにも綺麗なのでパッチリ。シラカバの幹の太さ・・・。



自然林より住宅地周辺の方が太いそうです。理由は間伐が良くされているからだそうです。放任すると茂りすぎて成長を阻害するのだそうです。細めのシラカバが群立する風景もまた、綺麗でした。(4枚目)

白色の花はルリチョウソウ(キキョウ科)、紫色の花はロベリアパール(キキョウ科)。同じ仲間です。花びらがソックリ。昼食後、レストラン内の庭を散策中に見かけました。プランターの中は花盛りでした。



(\*) 庭と言っても芝生程度なのですね。雪が深いせいでしょうか。それとも、近くに自然がいっぱいあるので、わざわざ敷地内に自然をつくる習慣がないのでしょうか。植木屋の仕事がなさそうですね。

白樺の樹皮は白い塗料を塗りつけたように真っ白ですね。(Sさんのコメント)

内陸部、特に郊外では、芝庭そのものも少ないようです。軒下まで車が入り込んでいる風景をよく見かけました。敷地内の庭木？あまり見かけませんでした。周囲は自然の樹木に囲まれて・・・。庭木は不要なのか・・・？たしかに、我々のように、比較的低木を扱うガーディナーの仕事は少なそうです。高木を対象としたアーボリストは結構、いそがしいのでは？ 森が広大なだけ、一般の低圧配電線を含め、送電線を守る作業は必須。積雪の森には重機を入れにくいのでは？想像ですが・・・

(完)